

はじめに

平成 16 年（2004 年）に埼玉県感染症情報センターが県庁から埼玉県衛生研究所に移管されてから 16 年が経過しました。病原体の検出状況も含め、感染症の発生に関する情報を一元的に集約し、必要な情報をわかりやすく県民や関係機関に発信していくためには、衛生研究所の感染症に関する専門性を活かした取り組みが必要です。当所では、感染症情報を扱う「感染症疫学情報担当」と、病原体の専門検査を担当する「ウイルス担当」、「臨床微生物担当」が連携し、必要な情報を共有・分析・提供できるよう、3 つの担当が連携して感染症情報センターを運用しています。

令和元年（2019 年）には大きな国際イベントとしてラグビーワールドカップが開催され、埼玉県では熊谷市において大会が開催されました。大会開催に合わせて疑似症サーベイランスを実施し、今年度行われる予定の東京オリンピック・パラリンピックに備えてきたところですが、結果的には COVID-19 の世界的流行の影響によって東京オリンピック・パラリンピックは延期されることとなってしまいました。振り返って今シーズンのインフルエンザの発生状況を見てみると、AH3 がほとんど検出されず、令和 2 年（2020 年）1 月に入ってからインフルエンザ全体の報告数が急に減少するなど、例年とは明らかに異なる傾向が認められていましたが、COVID-19 との因果関係についてははっきりしていません。日々、COVID-19 への対応に追われながら過ごす中、感染症の流行予測の難しさと重要性をあらためて感じているところです。

このたび、令和元年の感染症発生状況および令和元年度の事業について第 16 号の事業報告として取りまとめました。皆様からの忌憚のないご意見、ご指導をよろしくお願い申し上げます。巻頭のご挨拶とさせていただきます。

令和 2 年 7 月

埼玉県衛生研究所

所長 本多 麻夫